

さるしま junior

第8号（夏一その3）

令和3年6月23日発行

園長 小菅 哲也

ついに実現！大楠幼稚園との交流



諏訪幼稚園と大楠幼稚園は、同じ横須賀市立の幼稚園です。しかし、幼稚園がある地域や施設は対照的です。諏訪幼稚園は東地区の市街地に位置していますが、大楠幼稚園は自然豊かな西地区にあります。園外保育では、諏訪幼稚園が、三笠公園や猿島公園などの市が作った公園に出かけるのに対して、大楠幼稚園は、芦名海岸や前田川、大楠山などに出かけて行きます。

また、大楠幼稚園は園舎が2階建てで、広い園庭や花壇、畑も持っています。

両園の交流は、閉園に伴い諏訪幼稚園の園児数が減少する中、本園の教職員や保護者の要望を、教育委員会や大楠幼稚園の先生方が聞き入れてくださり実現しました。令和2年度から行う予定でしたが、コロナ禍のために残念ながら1年延びてしまいました。



そして、今年度、新型コロナウイルス感染防止策を十分にとった上



で、実施することになりました。両園の教職員同士が再三打ち合わせをもって当日に備えました。特に迎え入れる側の大楠幼稚園は、きめ細やかな準備を進めてくださいました。また、教育委員会では、主査指導主事の渡辺先生を中心にバスやチャイルドシートを手配してくださいました。こうした温かいご支援があつて実現した交流でした。

さまざまな感情が交差した第1回目の交流

6月17日（木）。午前9時10分、めったに乗車できない「横須賀市の専用バス」で大楠幼稚園へ向かいます。浄楽寺に到着したときは、はじめて見る景色にウキウキ感が漂っていた子ども



達。大楠幼稚園に近づくにつれ、それが緊張に変わりました。それもそのはず、

このメンバーで行く「初めての遠出」であり、これから自分たちの「3倍の人数」の中に飛び込んでいくのですから、当たり前のことかもしれません。





「はじめの会」では、大楠幼稚園の子どもたちのはきはきとしたスピーチと大きな拍手が迎えてくれました。諏訪幼稚園の子どもたちは…と言うと、ちょっと雰囲気飲まれてしまったようです。続いて3グループに分かれての「スライムづくり」。赤、緑、黄。色鮮やかで心地良い手触りのスライムが次々と出来上がります。「どうしたら美しい色が出せるか」「スライムでどんな遊びができるか」そして「どうしたら諏訪幼稚園の友達が楽しんでくれるか」など、大楠幼稚園では、この日に向けて、“作戦”を十分に練ってきたのが感じられました。

お弁当に続いての「自由遊び」。慣れない環境のせいか、遊具やおもちゃもいつも使っているものとは違うせいか、自然と諏訪幼稚園の子ども同士が固まってしまいます。ようやくその殻を破って、大楠幼稚園の子たちと遊び始めたかと思いきや、無情にも雨が落ちてきました。13時30分、温かいお見送りを受けて、大楠幼稚園をあとにしました。よほど疲れたのでしょう、帰りのバスの中では、眠りにつく子どもが多かったようです。



交流は（も）2回目から急成長が見られます！



幼稚園に戻ってからの反省会では、「大楠幼稚園の子がやさしくしてくれてうれしかった」「次の交流が楽しみ」といった前向きな感想が次々と発表されました。しかし、今回の交流は、「大楠幼稚園の先生方や子どもたちにお世話になった」という印象が強く残りました。きっと子どもたちの心の中にも、「今度は私たちが大楠幼稚園の友達を喜ばせたい」という思いが芽生えているのではないのでしょうか。

園行事でもふだんの活動でも、「諏訪幼稚園は2回目から大きく進化する」という「伝統」があります。 昨年の「猿島・三笠探検」でも、2回目の探検では、自分たちの力でたくさんの発見をしました。それだけにとどまらず、小学生顔負けの「体験発表会」まで作り上げました。



大楠幼稚園との2回目の交流は、10月1日（金）に予定されています。諏訪幼稚園の持ち味である「やさしさ」「ひたむきさ」「チームワーク」を存分に発揮して、大楠幼稚園の子どもたちや先生方にどんな感動を届けるか、期待して見守りたいと思います。果たして、諏訪っ子ジュニアからどんな“作戦”生まれるのでしょうか…。

※保護者の皆様には、レインコートなどの準備や、当日の時刻を変更しての送迎へのご協力、ありがとうございました。